

学校関係者評価結果

内容	評価項目	R3年度	総括	課題	学校関係者評価					
					4: 優れている 3: 適切である 2: 努力を要する	外部評価委員の意見				
I 学校経営	1 学校は、設置者の意思・指針を明確にしている。	4.8	説明会や教職員会議、また冊子などで折に触れ説明がされており理解ができています。また、3ポリシーなども簡潔明瞭に表現されています。	学校運営は教育目標到達に向けて機能しているが、新カリキュラムが2022年施行開始となるため、当該の特色を教育活動により反映できるよう計画を進めていく。会議の持ち方については、新職員が4名も入ることも踏まえ、だれもが主体的に意見交換できる雰囲気作りと効率的に短時間で討議が行える事前準備(資料の提示等)の会議運営方法を模索したい。	4	新カリキュラムの作成の意図等明文化がなされており、理解しやすい。また常に自己評価を実施して反映させようという姿勢がみられる。変更申請等も苦勞様でした。				
	2 学校のビジョン及び実現のための目標を策定し、教職員の共通理解を図っている。	4.5	「1」の理解と共に、その目標を達成するために学生に何をしていくか、教職員で同じ方向で進めるよう検討している。							
	3 学校評価を実施し、その評価を教職員は周知している。	5	4.5 会議の場で資料をもって報告されているので理解しやすく共有している。							
	4 教職員会議などを通じて、教職員は学校の経営管理に参画している。(学校経営についての情報を得て、経営的視点をもって、活動できる)	4	定期的な会議で報告があるので理解できる。また各担当からの報告や提案により機能していると評価する一方、各自が自分の意見を発信できていないと評価している。							
	5 各会議は、学校運営に関する議論の場として機能している。	4	また、以前と比べて、事前の議題提示や資料を準備して臨むといった姿勢の不足がみられている。しかし、新カリキュラム策定の一連の経緯や会議運営ではそれぞれの意見が反映されてより良い教育課程が編成できたと考えられる。							
II 教育課程・教育活動	6 教育目標の内容は、卒業時到達目標に合わせ、評価・検討している。	4.3	評価検討はよくしている。しかし、臨地実習が学内実習になり、臨地実習における技術到達度の評価やその対策までの検討や卒業生像の評価まで明確にできていない。	新カリキュラムが開始される。修正を踏まえた教育課程の運営の実態を評価する。また、コロナの影響で変更が出た場合どのような代替案で目的が達成されるのか。その対応を検討する。特にフィールドワークや臨地実習での未到達目標を的確に評価する。また、授業を大事にする。自学自習時間を効果的に活用することが課題となる。ルーブリック評価については、さらなる検討を続け、評価の一貫性や公平性を保つことや実習で何を学べばいいのかわからない学習者の学習目標を示すことができることで、臨地実習内容の充実を目指したい。	3	15番において昨年度の評価が大幅に改善されたことは、今報道などで問題になっているハラスメント対策としてもよかった。年々指導は大変なようだが、国家試験が全員合格できている。今までのように頑張ってもらいたい。				
	7 教育理念・教育目的・目標は一貫性を持っている。	4.8	また、臨地実習において学生が習得すべき能力を具体的に明示し、成果のみでなく学生の取り組み姿勢等のパフォーマンスを評価できるルーブリック評価に取り組んだことは評価できる。							
	8 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあつたものに修正している。	4.3	令和3年度は2年度から新カリキュラムの策定で現カリキュラム評価を全員で展開した。その取り組みで理念・目的・目標時代の变化(新カリの意図)等は現段階で修正できたと捉える。							
	9 シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。	4.3	シラバスは学生がわかりやすいように作成されている。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でシラバス通りに進まない部分もあつた。過密な部分や一部講師都合により時間割変更等で調整することもあつた。当校は自学自習を効果的に活用してもらうよう配置しているがその点の時間の使い方が学生に浸透できていない。							
	10 効果的な授業運営のため、適切な時間割を調整している。	4.5								
	11 学生に合わせた授業内容や指導方法の工夫をしている。	4.1	教員会議での学年や学生個人の特性をすることや、授業評価を受けてその情報から工夫を常に模索している。しかし、自らわからないと発せない学生への教授が年々困難を増している							
	12 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めている。	4.8								
	13 実習における患者の倫理的配慮、患者等からの同意が得られている。	4.9	4.4 同意書をもって、ほぼ担当教員の役割として同意がとれている。また病院側の介入もある。							
	14 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3.5	協働が分業ととらえられたり、実習施設により違いがあつたりと難しいと認識している。また、コロナ禍で臨地に出られなくなり、単発で関わる時間が制限されたりと協働することに困難が増している。							
	15 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。	4.4	昨年度の評価で、個々への指導方法が異なってくる中で、学生にとっては公平性が損なわれたと感じたり、時として厳しい言葉を伝えたりしている中で「18」の学生への人権への配慮が欠けたと感じさせる対応があると感じさせるという指摘や保護者アンケートにおいても、「学生がもっと頑張ろうと思える指導内容の検討」「寄り添った声かけ」「教員のある指導」などという表現で要望が出されており、教員一人一人が言動に注意するとともに、現代の学生特性の理解や、その特性に合わせた教授方法を学ぶ必要性を強く認識した項目である。今回各教員がアカウンタブルのリスクを考えたが十分注意して対応したという。その結果として、8・4、4への上昇につながったと考える。ただ、教員はその対応に学生の受け取り方や価値観の違いに難しさがあるとしている。その対応を教職員で共有し反省と共に教員の意図と判断・結果を分けて認めあつていく関係を作る必要がある。							
	III 入学・卒業対策	16 より多くの応募者を確保することに努めている。	4.6				また、在校生アンケートからは、学校側が説明したという認識があるものに対して、「なぜ」「どうして」というマイナス感情(不満や疑問)が表出されている。コロナ禍で、状況によって変化に対応が正しく認知できていない結果である。その不満が教育活動に影響することは避けなければならない。なお一層に説明責任と学生の納得したか否か結果責任を果たせなければならない。「30」の学生の意見の反映できるシステムの検討も必要と考える。	新型コロナウイルス感染症の影響で募集の機会が減りPRが少い印象。学校説明会の参加者数の減少もあつた。社会の傾向をみながら定数確保に向けて活動する。また退学者を出さないよう、学生が「困難」に対して継続して取り組む動機づけを持たせる関わりを模索する。面試対策は、[医学書院国家試験対策Web]プログラムを導入する。全学年活用方法の浸透を図る。外部から国家試験対策担当講師を定期的に参加させ学生の動向を把握し対策をとる。その効果を見て学生の自己負担部分の軽減を図る。就職支援は継続とする。	3	入学性確保が一番の課題になると思う。情きゆおを見るに社会人にシフトしたアプローチでもいいのではないかと。課題であった退学者が1桁で留まったことは、先生方の学習支援の成果の一つだと思う。国家試験合格率や当地区就職率を考えると優れているといつてもいいのではないかと。
		17 国家試験に向けて、学生にあつた指導・援助を行っている。	4.6				定期的な模擬試験や補修講義を前年評価を受けて実施する中で、コロナの影響によって1月から国家試験対策は、zoomを活用しての、自宅学習への支援という形になった。結果として今年度の国家試験の合格率は			
		18 中途退学者を少なくする工夫・努力をしている。	4.1				今年度は7名発生。退学者理由から、単位を修得する(学習についてこれる)ことへの支援が必須となる。また人間関係能力の種差も影響している。学校生活に適應できるよう工夫をしているが当校の学生に合わせた対策についてさら検討を要する。			
		19 卒業生の当地区医師会内の就職率を高めるよう努めている。	5				入学時から理念の浸透を折に伝えたり、当地区修学資金貸与学生と施設との接触(定期面談ないさつ・報告の責任)の示唆、さらには就職支援担当が中心となり、面接を導入したことが、当地区就職率87.1%県内就職率100%の成果につながつた。			
IV 学生生活への支援	20 学習への支援をしている。	4.5	支援は十分していると捉えるが、教員が思う支援と学生や保護者が描いている支援の内容方法に乖離があり、効果的な学習行動までに時間を要したり、負の感情が発生している。学習方法とそのため学校の工夫点や、その効果について再度説明する必要がある。	理解する、活用できる知識の獲得といった目標達成の学習行動が定着できる支援のあり方を検討する。健康増進用紙の適正な活用と生活リズム指導で感染を防止したい。また相談等については学年担当を採用したことで効果的な関わりを模索する。まずは学習で主体的な行動を…次年度も縦割り活動を導入し、宿みの共有や学習方法について自ら解決できる場面を作る機会や人間関係形成能力の育成の場面とする。	3	試行錯誤していることがよくわかる。コロナ下で、クラスターを発生することなく1年教育できたことは、教員学生双方の意識が高いのだろう。				
	21 学生の健康管理を行っている。	5	コロナウイルス感染症の関連もあるため、これまで以上に健康管理は行っている。またカウンセラーの存在は、1年生2年生とも4月に個別面談を実施していただいたことで周知できた。相談件数は16件で人間関係について心身の不調である。初回の相談経路は教員からの進めが多い点も当校の特徴である。その中でどの先生に相談していいかわからないという学生がいたりコロナ禍の体制で学生との関係構築が難しくなっている一面が示唆されている。							
	22 学生生活・進学・就職に関して学生の相談に応じている。	4.8	学生自身が現状に問題を感じていない。また、自ら解決する行動や困っていることを言動で表すことができないため、学校側からアクションを起こすことが多くなっている。その為、担当が窓口となり定期的に面接を導入していることは有効である。また、修学資金を受けている学生に対しては、事務担当が窓口になるとともに副学長による連絡認定面接を実施した。							
	23 就職困難学生に対する相談の支援をしている。	4.7								
	24 学生主体の活動に対して支援をしている。	4.2	コロナ下で、教科外での活動の自粛、教科での集団活動の中止もしくは減少とその機会が減っている。その中でも今年度実施した縦割り活動については、有益であり継続となる。							
V 管理運営・財政	25 予算計画・年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・管理を行っている。	5	各担当から予算を出してもらうことで、担当としての予算執行意識や、急な支出を抑えることができる。今年度は、教員募集のため人材派遣会社を活用した。現代の職員確保は人材派遣会社を活用することは必須であるため、委託費は大きく膨らむことは致し方なく予算確保に努める。また、ICT環境の整備と修繕費は一定の支出を見込む必要がある。外部からの緊急支援の補助金申請は該当の有無を常に精査し適宜予算執行管理できている。今年度は初めて、授業の分割納入者の特別処理をした。今後の収入減についての動向も注意していく必要がある。	予算は適正に管理執行されている。収支を見据えて適宜執行する。学生の安全を確保するため[新しい生活様式]を講じ、最新の情報を得ながら危機管理を高めていく。学生の意見の反映については、アンケートだけでなく、今年度からスタートする学年担当のかわかりなどからも意見や感想を聞き学生への満足につなげていく。	4	適切に管理運営されている。				
	26 学生・非常勤講師や教職員の個人情報管理及び情報のセキュリティ対策は整備されている。	4.6	ガイドラインは策定されている。マイナンバーカードの情報管理も適正に行われている。個人情報漏洩に関しては、常に指導を徹底して行く。インターネット環境についても一層の強化が必要であると思うが、職員間で知識の格差があるため、マニュアル化とウイルスチェックなどの個人管理の行動も徹底して行く。							
	27 校舎内の安全管理・防災対策は整備されている。	4.6	防災訓練は、4月に実施した。緊急連絡網としてラインが導入され機能している。災害時の防災マニュアルも策定済み。現段階で大きな危険箇所はない。また、感染対策は、年次当初に当校の考え方、ゴールデンウィークの過ごし方等適時文書にして配付し、新たな生活様式の実践を常に指導してきた。感染者は4名発生したが、学校内での濃厚接触者発生は0であった。また1学年のみ予防的観点から2日間(週末含め5日)の休業を実施した。3学年を通じてコロナの予防接種についても先行実施できる状況を作ることができた。							
	28 学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている。	3.8	学生・保護者アンケートを行い、意見を聞く機会をとっている。しかし、質問内容や状況を正しくとらえての意見でないことがあつたり、学生の意見をわがままととらえしまう点もあり、よりよくするためのすり合わせが必要。							
VI 施設設備	29 校舎は常に整備され、不備なく機能している。	4.9		感染症防止対策として設備の運用方法は検討が必要である。	3					
	30 教育目標達成に必要な備品及び新しい教材が整っており活用されている。	4.6	劣化により、小破修理が増えているが、報告により適切に補修/交換対応がとられた。また、感染症防止対策が継続して必要となつたが、令和3年度は同意会費からの備品補充が十分なされたため、設備は充実された。感染症対策がなされている学校として機能するために、学生の協力も必要である。							
	31 学生のために、休息・親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。	3.5	新型コロナウイルス感染症対策で、自由に使用・交流できるスペースを閉鎖した。構造上にも限りがあり他施設に比べて部屋数の不足もある。特に卒業延期者の中でスペース確保が十分でなく以後の悪い学習環境等が提供できなかった。							
VII 教職員の育成	32 教員が計画的に研修に参加できる仕組みがあり、新知識・技術の修得に努めている。	3.6	教員の補充がなされない中で、さらに新型コロナウイルス感染症で日々変化する対応に翻弄された。その為教職員はすべての業務において例年とは違う対応を余儀なくされ、その都度方法の検討、アイデアを出し合い各自が持つ得意分野が発揮されて乗り越えられた。当校は、研修制度や各調態への協力関係等、学びの機会が設定されているが、コロナ対策の制約及び教員の志向が向いていない。当校の検討が必要である。今年度の研修は2名(各1回)のみにとどまった。	教育目標達成に向けて教員が新しい知識を教育実践に取り入れていくことは必須である。オンライン研修が今後主流であるとおもうが、むしろ参加しやすいと捉え、各教員が必ず専門性と他分野において各1回以上の研修参加を目標とする。	2	コロナ禍であること、教員確保が難しくなつた点などを考えると致し方ない気はするが、令和4年には4名の入職者を確保できたことはよかった。新入職者を含めて、よりよい教育の実践に努力してほしい。				
	33 教員が計画的に研究調査活動に取り組んでいる。	2.5	3.1							
	34 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度がある。	3.1								
VIII 広報	35 ホームページは適時更新し、見やすくしているか。	4.6	ホームページは一番の広報手段であるとの認識から、情報は更新され、説明会などもコロナ禍に合わせてzoomを導入したりと工夫しているが、応募者の減数など成果に結びついていないことが課題である。また、写真などが古いとの意見もあり改善する点もある。また担当による高校への電話による情報提供や、業者からの学校訪問による就職ガイダンスや模擬授業へは、年間7回参加した。	新カリキュラムに合わせ内容の刷新が日露尾となる。HPは見栄え、アクセスの利便性など質の向上を図る。地域に信頼される学校づくりとして今後情報公開の内容を精査するとともに、学生からの悪い口コミに対して対応策を練る。	3	看護士離れは、一つの学校の取り組みだけでは限りがあつた気がする。				
	36 学校広報活動を効果的に実施しているか。	4.5								
IX 地域連携	37 地域社会への貢献の一環として学校施設を開放している。	3.3	3.3	次年度はコロナの影響がある中で、新カリキュラムがスタートする。地域へのフィールドワーク等も開始されるので感染予防対策を徹底しつつ機会を設定できるよう展開する。	3	地域との連携は、今後も意識して地域の学校として発展してほしい。				
	38 地域との協力関係が確立されている。	3.3	よさこい祭りの中止や、実習施設からの臨地実習受け入れ困難などコロナ下での活動困難が影響している。しかし、地域への就職率が高い点など地域への還元はなされている。また、新施設の開拓などでは、地域との関係が確立されているからこそ新実習施設が見出されている点は評価できる。							

※設問項目の表現に変更を見ている。令和2年と比較できない項目がある。